

(株)ハラダファーム本多・(株)今桐ファーム

[安芸高田市]



(株)ハラダファーム本多 代表取締役：本多正樹
 設立：平成22年10月
 経営面積：約53ha(農地中間管理機構活用面積43.8ha)
 生産品目：水稻(特別栽培米, 酒米など), 白ネギ, そば
 従業員：役員4名, 常時雇用2名



(株)今桐ファーム 代表取締役：今桐玄郎
 設立：平成29年9月
 経営面積：20ha(農地中間管理機構活用面積20ha)
 生産品目：水稻, 加工用米, そば
 従業員：役員3名, 常時雇用1名

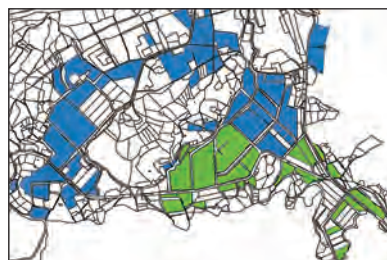
分散錯ほの解消と規模拡大で 新たな法人経営体が誕生

(株)ハラダファーム本多は、農地中間管理事業を活用し、担い手間での農地の交換による分散錯ほの解消に積極的に取り組んでいます。その相手方であった中心経営体の1人が分散錯ほの解消と併せて、経営規模を拡大(平成25年約8ha⇒現在20ha)し、(株)今桐ファームの設立へと発展しました。

人・農地プランの中心経営体 同士で農地を利用調整

安芸高田市高宮町原田地区では、以前から集落法人の設立や個人の担い手の規模拡大により、担い手への農地集積が進められてきました。

また、農地中間管理事業が始まった当初から、地域に精通した地域駐在コーディネータ(元農業委員)の働きかけにより、担い手の新規集積や利用権の更新時に、農地中間管理事業を活用してきました。原田地区人・農地プラン(平成30年2月更新)では、地区内の4法人与16名が中心経営体に位置づけられ、ほとんどが農地中間管理機構の借受希望者となり、農地の利用調整を進めています。



■ (株)ハラダファーム本多の経営農地
 ■ (株)今桐ファームの経営農地

図は、両法人が利用調整を行った農地の一部です。他の地区でも同様に農地の利用調整に取り組んでいます。

地域駐在コーディネータが 貸し借りの条件を調整

分散錯ほの解消を円滑に進めるためには、農地の貸し借りの条件を調整する必要があります。その役割を地域駐在コーディネータが担うことで、担い手ごとにまとまった農地を貸し付けることができています。農地が団地化することで作業効率が改善され、さらなる規模拡大や園芸品目への取り組みにつながっています。